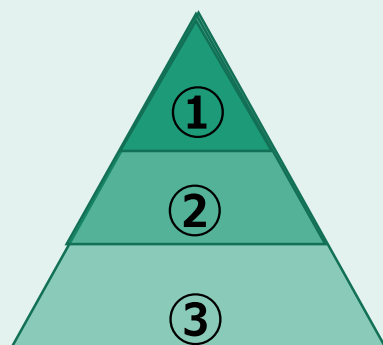


# 地域ケア会議地域ケア推進部会 ケア検討部会・個別会議の報告

令和5年3月22日（水）

福祉介護課地域包括支援センター係

## 2 胎内市の地域ケア会議



### ① 地域ケア推進部会

政策形成、資源開発

### ② ケア検討部会

地域課題の把握、整理

### ③ 地域ケア個別会議

個別課題の検討

### ケア検討部会委員

胎内市介護支援専門員連絡協議会、障がい者基幹相談支援センター、リハビリ職、認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーター、コミュニティソーシャルワーカー、地域福祉計画担当者、介護保険事業計画担当者

様々な職種、機関で協力しながら、地域ケア個別会議で出された地域課題の把握や整理、地域課題への対応策について検討しています

## 令和4年度 ケア検討部会

2月 3日(金) 1回目

2月27日(月) 2回目

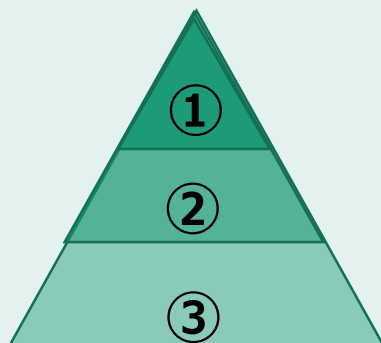
### 地域課題把握のための研修会

講師：新潟リハビリテーション病院  
新潟県介護予防アドバイザー  
作業療法士 村山拓也 氏

これまで、ケア検討部会で地域課題の検討を行ってきたが、解決策の検討までたどり着かないという課題を抱えていた。そこで今年度は、地域課題について学び、考える機会として研修会を実施。

# 4

## 胎内市の地域ケア会議



### ① 地域ケア推進部会

政策形成、資源開発

### ② ケア検討部会

地域課題の把握、整理

### ③ 地域ケア個別会議

個別課題の検討

## 地域ケア個別会議の目的

- 多職種の観点で検討事例の課題を解決し、対象者のQOLを向上させることが目的。
- 参加者全員のスキルアップ、ケアマネジメントやケアの質の向上を図るOJTの場。
- 個別事例の課題解決を通じて地域課題を把握する場でもある。

**これまでの手法では、上記の目的を達成することが難しく、今年度より事例提供者に伴走する形でモニタリングを強化し、会議後も情報共有や必要時は助言を実施。**

市町村／地域包括支援センター／専門職／事例提供者

### 司会者

市町村、地域包括支援センター

### 事例提供者

居宅介護支援事業所

### 助言者（専門職）

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士・栄養士  
歯科衛生士、主任介護支援専門員、生活支援コーディネーター

## 6

## 地域ケア会議の流れ（胎内市）

項目	所要時間	ポイント
事例の読み込み （Zoom開催時は省略）	約5分	事例の概要の確認。
ケアプラン作成者より概要説明	約3分	本人の意向をふまえ、どこに課題がありその解決のためにどのような計画を立てたのかを中心に話し、参加者に事例の共通認識を持ってもらう。
質問	約10分	事例の自立を阻害している要因がどこにあるのかを深めるために、助言者より質問を行う。
課題の提示	約2分	事例の全体像を質問により深め、そこから見える課題について優先順位の高いものについて提示する。 設定した課題について専門職から助言を受けて良いかプラン作成者へ確認をする。
助言	約15分	各専門職種が、本人の状態・生活状況・ケアプランの内容に対して介護予防の理念に基づき、自らの専門分野の視点から自立へ向けた具体的な支援内容の提案を行う。
まとめ（司会者）	約5分	課題に沿った助言を中心に助言をまとめる。

# 7

## 地域ケア個別会議(Zoom)



# 事例紹介

令和4年7月29日実施

- 90歳代 男性 ひとり暮らし
- 認知症
- 長女は近隣市に在住
- 検討課題：冬期間も独居生活を送ることが難しい
- 助言（一部抜粋）

民生委員や地域住民の見守りについて情報収集を行い、本人を地域で支える体制づくりについて検討するとよい。



## ●助言（一部抜粋）

令和4年8月23日実施

民生委員や地域住民の見守りについて情報収集を行い、本人を地域で支える体制づくりについて検討するとよい。

⇒長女が提案を拒否。本人が自分勝手な性格のため、地域住民へ迷惑をかけるのではないかと長女が遠慮している様子。

## ●再検討

⇒事例提供者（介護支援専門員）と民生委員が情報共有し、見守ってもらいたいポイントを具体的に民生委員へ伝える。

令和5年2月28日実施

## ●再検討事項

⇒長女の希望により、介護支援専門員と民生委員が連絡を取り合うことは実現しなかった。

その代わりに、長女が民生委員やその他の近隣住民へ挨拶や状況説明を行った。

## ●その後の経過

⇒認知症の症状により、近隣住民へ物盗られ妄想が出現。近所トラブルが多くなり、長女が疲弊し施設入所を検討した。本人も施設入所を希望したため、令和4年12月に介護付有料老人ホームへ入所した。

# モニタリングを実施しての感想

## ●事例提供者の感想

⇒ひとり暮らしを継続するためには、折り合いが悪い長女の助けを借りなければならないことが多く、長女の心理的負担も考慮しながら関わっていた。

そのため、地域ケア会議での助言を実現することはできなかったが、会議でもらった助言は、他の方の支援に大いに役立つと感じた。会議参加への負担感もなく、多くの専門職から助言をもらえる機会がありがたかった。

## ●担当の感想

⇒今回の会議での助言は、本人と長女の関係性もあり残念ながら実現には至らなかったが、この評価を今後活かして更に学びを深めていかなければならないと感じている。

今回紹介した事例では、会議がOJTの場であるという目的は達成できていると思うが、個別課題の解決には至らなかった。次年度以降、会議の助言者とこのことを共有し、事例本人や事例提供者の助けとなる助言ができるようにスキルアップを図っていきたい。

## 12

# 最後に... ✨

会議を開催して「目的達成」とはせず、その後を確認しながら評価していくモニタリングの必要性を改めて感じた1年でした。

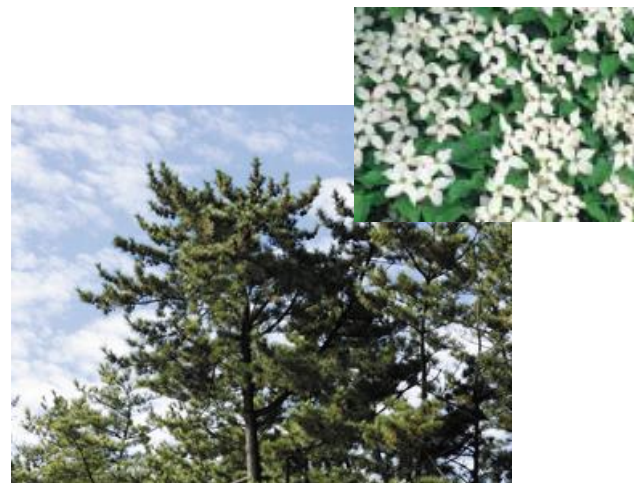
今後もモニタリングを重視しながら、事例提供者（介護支援専門員）への伴走支援や助言者の質の向上に努めていきたいと思います。



胎内市の鳥 ヤマセミ



胎内市の花 チューリップ



胎内市の木 松 やまぼうし